HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	農村婦人問題文献目録（戦前第1集）
Citation	北海道大学教育学部社会教育研究室報, 1976, 83-89
Issue Date	1977-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/28593
Type	departmental bulletin paper
File Information	1976_P83-89.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

農村婦人問題文献目録（戦前第１集）

まえがき

1. この文献目録は、明治以降の我国における農村婦人の労働と生活と要求の全体像を捉えるべく作成されたもので、とりあえず戦前についての整理分である。
2. 農村婦人を直接の対象とした文献についてできる限りとりあげた。農業労働、農民生活一般を検討するなかで、農村婦人についても触れているものがあるが、それは省略した。また一般統計類ものぞいている。各県の農会報についてはほとんど未検討。
3. 農村の習俗、農村婦人の移動、農村児童問題も農村婦人問題の全体像を明らかにする上で重要であるが、これも別の機会にゆずる。
4. 家族制度については、社会学に家族制度そのものについて、理論的実証的に明らかにした成果があるが省略した。組織・運動の項では、処女会・青年団に関する文献は省略している。

1 総　説

(1) 稲田昌植：『婦人農業問題』丸山舎、1917
(2) 平田鼎：「農業と婦人問題」（帝国農会報７－６）、1918.
(3) 天野藤男：「農村開発と婦人の使命」（帝国農会報10-6），
(4) 中西伊之助：「貶されたる農村婦人の問題」（婦人公論11-11），1926.
(5) 平野学：「農村婦人の問題」（婦人運動５－１），1927.
(6) 高群逸枝：「農村と婦人の自覚」（同上５－４），1927.
(7) 中沢弁次郎：「婦人と食糧及び農村問題」（同上５－２），1927.
(8) 岡本利吉：「農村の婦人の生活」（同上５－２），1927.
(9) 石坂橘樹：「農村の女子の仕事(一)－(六)」（日本農業26. 2～9），1930.
(10) 川村エイ子：「農村婦人のつどい」（戦旗1930年6月），1930.
(11) 西村盈子：「越後人の弁（農村婦人）」女人芸術1931年2月），1931.
(12) 先崎或康：「農村の女性飢饉」（帝国農会報22－３），1932.
(13) 市川房枝：「農村婦人を直接政治に参加せしめよ」（米国日本），1936.
(14) 青木恵一：「農村婦人の地位と現状」（女人文芸３－４），
(15) 丸岡秀子：『日本農村婦人問題』初版，高陽書院，1937. 第２版，八雲書店，1948.
(16) 水野武夫：「農村婦人問題の重要性」（村５－４～５），1938.
(17) 山本正男：「農村婦人対策の重要性」（産業組合392），1938.
(18) 暉峻義等：「農村婦人の任務について」（国民保健２－17），1938.
(19) 同　上：「生産力拡充と農村婦人の任務」（戦時食糧問題研究），1939.
(20) 住井すえ：『農婦譚』〔他２編〕，青梧堂，1940.
(21) 古瀬伝蔵：『戦ふ農村婦人』，1940.
(22) 高良富子：「農業と経済と婦人」（農業と経済７－９），1940.
(23) 産業組合中央会：『農村と婦人活動』（産組中央会），1941.
(24) 江馬三枝子：『飛騨の女たち』三国書房，1943.

(25) 能田多代子：『村の女性』
三国書房，1943.
(26) 三瓶孝子：「農家の女性」
（農業と経済 11-1），1944.
(27) 吉田博：「農村婦人と食糧増産」
（北方農業 521），1944.
(28) 美濃口時次郎：『戦争と農村女性の勤労』
（農業と経済 2-1），1945.
(29) 館稔：「戦時人口政策と農村婦人」
（農業と経済 12-1），1945.

2 歴史・記録

(1) 稲村隆一：『日本の農村を語る－日本農村婦人哀史』先進社，1931.
(2) 同　上　：『農村婦人哀史』
（改造 13-12），1932.

3 生産と労働

(1) 「婦人の農業労働に関する統計資料」
（産業組合時報 11-8·9），1934.
(2) 田中作治郎：「男女の労働能率を比較して女の賃金の誤謬が最低米価に及ぼす影響を論ず」（農業経済研究 10-4），1934.
(3) 京都帝大農経教室：『農家の労力利用状況調査を中心とせる農村調査』，1934.
(4) 「凶作と出稼婦女問題座談会」
（職業紹介 1935年1月），1935.
(5) 石原義治「婦人労働市場の発達と婦人職業問題」（社会事業研究 24-9·10·11）
1936.
(6) 島根県経済部：『婦人の有畜農業経営』
1936.
(7) 石橋幸雄：『農業経営における婦人の地位」（農業経済 10-11），1938.
(8) 大塚一朗：「戦時における女子労働」
（経済論叢 46-2），1938.
(9) 池田善長：『女子労働について』
1938.
(10) 帝国農会：『農家の労働状態に関する調査－主として男女別労働に就て－』
（農業経済調査報告第9輯），1938.
(11) 農林省：『稲作労働における男女の割合』，1938.
(12) 石橋幸雄：「農業労働力と婦人」
（農業 1939年11月），1939.
(13) 野尻重雄：「農村労働の都市流出年令層と男女流出年令構成の特徴」
（農業経済学研究 15-1），1939.
(14) 帝国農会：『共同作業・農繁期託児所共同炊事実施に伴う農村労働事情調査成績』（農村労働事情資料1），1940.
(15) 昭和研究会：『女子労働に関する報告』
1940.
(16) 内海養夫：「農村の主婦の労働」
（産業と婦人№8），1942.
(17) 早川考太郎：「農業と家族労働」
（村，10-8），1943.
(18) 中村忠次郎：「農業技術と婦女子訓練」
（農機具 1944年5月），1944.

4 生　　活

(A) 家事労働

(1) 暉峻義等：「農家主婦の家事作業に関する研究（其一）農村姓婦の家事的労作の遣り方改善について」
（農業労働調査所報告№17），1935.
(2) 暉峻・船石：「同上（其二）台所改善による炊事作業の向上」
（同上，№26），1936.
(3) 船石　幾久：「同上（其三）農村台所の改善の実例」
（同上，№26），1936.

(4) 船石・勝木：「農村給水問題に就て其二、常用水の供給と家事作業，（同上，№24）1936．
(5) 自由学園：「農村婦人の生活時間」（婦人之友1939年4月），1939．
(6) 帝国農会：『農繁期栄養食共同炊事の事例』，1939．
(7) 奈良県経済部：『農繁期における共同耕作』，1939．
(8) 村山重忠：「農民の栄養と共同炊事」（社会政策時報4-2），1939．
(9) 小野勝雄：『馬山村における農繁期共同炊事』，1939
(10) 丹羽四郎：「共同炊事及共同託事等による農業労働の調整」（社会事業研究28-5），1940
(11) 滝沢一郎：「支那事変と農村生活共同施設」（社会事業24-1），1940．
(12) 放送文化研究所：『国民生活時間調査』日本放送協会，1942．
(13) 森川規矩：「農村共同炊事の実態と今後の希望（農業と経済9-9），1942．
(14) 同上：『共同炊事の運営』，1943．
(15) 福永嘉江：「職業を有する主婦の生活時間」（産業と婦人№14），1943．
(16) 井上正勝：「食糧増産と共同炊事・託児所」（農政5-6），1943．
(17) 佐賀県農業労働研究所：「農繁期共同炊事の調査（蓬池町）」（労研彙報1.5）1944．
(18) 庄田光等：『家事労働，主婦生活の合理化に関する研究』（厚生科学叢書第7），1944．

(B) 家事経済

(1) 沖田定次：「農家・職工及俸給生活者の家計」（社会思想7-8），1927．
(2) 石川武彦：「農村における家事経済(一)(二)」（農業世界22-1.2），1927．
(3) 渡辺庸一郎：「内閣統計局による農業者の家計調査報告」（農業経済研究5-3），1929．
(4) 東大農学部研究室：『農村生活の調査』岩波書店，1933．
(5) 東大農学部農業経済教室：『庄内田所の農業・農村及び生活』，1936．
(6) 三瓶孝子：「家計簿より見たる農家の経済生活(A)(B)」（労働科学研究19-4･7），1942．

(C) 衣・食・住・生活改善

(イ) 衣生活

(1) 藤健蔵：「農村婦人作業服の改善」（福岡県農会報291），1930．
(2) 倉敷労働科学研究所：「農村における衣服の問題其一，其二」（農業労働調査所報告第21号），1935．
(3) 船石幾久：「農家婦人作業服」（労働科学研究12-5），1935．
(4) 宮本倫彦：「農家の衣料」（社会政策時報262），1937．
(5) 早川考太郎：「モンペと農村女性の服装」（農業と経済5-11），1938．
(6) 新星宝三：「青森地方の女子労働着」（衣服研究10），1942．
(7) 松本満夫：「栃木地方の女子労働着」（衣服研究11），1942．

(ロ) 食生活

(1) 菅野千代子：「農村児童栄養改善の使命を帯びて」（栄養の日本3-13），1934．
(2) 勝木新次・木村孝夫：「農村の栄養に関する研究（其一）農家の自家用硫案及果実に関する調査」（農業労働調査所報告№2），1934．

(3) 同　上：「同上（其二）農家の疏菜自給に関する実施試案」（同上№5），1935．
(4) 群馬県：「栄養改善と婦人との関係に就て実験成績報告」，1934．
(5) 暉峻義等・谷津田盛：「農村の栄養に関する研究（其三）炊事用具特に主副食物煮炊き用具について」
（農業労働調査所報告№6），1935．
(6) 同上：「同上（其四）農家の自家用米の資料に関する調査報告）（同上№6），1936
(7) 同上：「同上（其五）婦人会を指導して行いたる農村主食物改善」
（同上№8），1936）
(8) 小宮山主計：「農村学校給食の走勢と其批判」（社会福利1935年11月），1935
(9) 原徹一：「農村住民の食物（生活改善）」
（米穀日本1936年6月），1936．
(10) 吉岡金市：「農家の自家用加工食糧品に関する調査」（労働科学14-10），1937
(11) 森本信也：「東北地方農家食物に就て」
（糧食研究146），1938．
(12) 東京府衛生課：「農村女子青年の栄養常識の状況」（公衆衛生），1938．
(13) 原徹一：「農村の栄養改善㈠㈡㈢，
（農業1939年3・4月），1939．
(14) 山木晃治：「農村食生活改善と婦人」
（北方農業），19
(15) 藪考平：「食生活の自覚一食糧自給態勢の形成に働く消費の任務一」
（農業と経済11-2・3），1944．
(16) 桑原丙牛生：『農村の栄養指導』泉書房1944．
(17) 酒井章平：「戦時下農村食生活普及対策」
（農業研修1-7），1944．
(18) 中央食糧協会：「本邦郷土食に関する調査報告」（国民食9.10.11.12），1944．

㈥ 住生活

(1) 内務省社会局：『農漁業者住　宅調査』1929．
(2) 長谷部ふみ子：「経済更生は先づ台所の改善から」（農業と機械9-11），1934．
(3) 積雪地方農村経済調査所：『積雪地方農家家屋及農村共同作業場設計に関する調査』（同所報告第4号，第6号），1934．
(4) 窪川稲子：『台所について考える』
（米穀日本1936年6月），1936．
(5) 金盛富雄：「農村住宅改善の提唱」
（農業と機械146），1937．
(6) 岡島暢夫：「東北地方農村の住宅と其の生活状態」（日本労働科学研究所農業労働調査所），1939．
(7) 日本学術振興会：「東北地方農山漁村住宅改善調査報告1-2」
（日本学術振興会），1941．
(8) 鯉沼　吾：「農村保健と住宅」
（農業と経済9-9），1942．
(9) 石原憲治：「日本の農民建築」
（農業と経済9-9），1942．

㈦ 生活改善

(1) 青戸精一・伊藤悌蔵：「農村の娯楽及生活改善の紹介」
（農業経済研究5-2），1929．
(2) 青柳栄司：「生活の合理化と超合理化」
（糧食研究64），1930．
(3) 高橋雅介：「農業生活改善の実際」
（社会政策時報1933年4月），1933．
(4) 高橋雅介：「東北地方農家の生活様式の概況」（社会政策時報174），1935．
(5) 帝国農会：「農村生活改善事例」
（帝国農会報25-4），1935．
(6) 協調会：『農村生活改善の話』
（農村問題解造叢書第3　），1935．

(7) 永友繁雄：「満州開拓農家の経済状態及び改善策」（農業と経済 9-4），1942．
(8) 山本晃治：「農村生活改善と婦人」（北方農第 43-2），1944．

5 保健・衛生・福祉

A 婦人の健康

(1) 阿部磯雄：「人口問題と産児制限」農村問題叢書13編），1927．
(2) 内務省衛生局：「農村保健衛生実施調査成績（昭和4年度）」，1929．
(3) 内館泰三：「農村の死亡率と農村保健問題」
(4) 内務省：「飲料水に関する統計」，1931．
(5) 杉野忠夫：「農村婦人の産児率について」（洛友会報5），1932．
(6) 岩崎辻男：「農村主婦の母性的活動に関する考察」（医業と社会 4-25），1934．
(7) 岩崎辻男：「農家主婦の母性的活動に関する研究其一、農村婦人の妊娠・出産・哺育に関する考察」（農業労働調査所報告№13）1935．
(8) 横川つる：「同上其二、農家における出産準備について」（農業労働調査所報告№22），1935．
(9) 矢ケ崎徳蔵：『農村に関する社会生物学的研究』（民族生物学研究第1輯），1936．
(10) 横川つる：「農家主婦の母性的活動に関する研究其三，農村における出産状況調査報告」（労働科学研究 3-1），1936．
(11) 暉峻義等・横川つる：「農家主婦の母性的活動に関する研究其四，農村婦人の産褥生活についての批判的考察」（労働科学研究 13-3），1936．
(12) 白井伊三郎：「農村に於ける死流産について」（労働科学研究 13-4），1936。
(13) 横川つる：「同上，其五，農村における乳児の発育について」（労働科学研究 14-9），1937．
(14) 内務省社会局：『農民医療費に関する調査』1936．
(15) 東北更新会：『妊産婦並乳児保健事業視察報告』，1937
(16) 暉峻義等．横川つる：「農村婦人の妊娠過程」（労働科学研究 15-7），1938．
(17) 久保田政雄：「農村労力不足と母性保護」（食糧経済 5-9），1939．
(18) 吉岡金市：「農村保健の根本問題ー労働力の不足と労働の強化」（産業組合 408），1939．
(19) 小宮山新一：「農村に於ける母性の勤労と乳幼児保護」（児童保護 11-6），1939．
(20) 全国協同組合保健部：『農村保健年報第1輯』，1940．
(21) 高橋実：『東北一純農村の医学的分析ー岩手県志和村に於ける社会衛生学的調査』朝日新聞社，1941．
(22) 井上房江：「農村に於ける妊婦の労働を看る」（産業と婦人 4号），1941．
(23) 林俊一：『農村の母性と乳幼児』朝日新聞社，1942．
(24) 杉本寿：「農村人口と産小屋制度」（農業と経済 4-7），1944．

B 育児、保育施設

(1) 愛国婦人会本部社会部：『農村託児所設置要項並に実地参加』，1927．
(2) 松岸顕蔵：「農村に於ける乳幼児愛護運動」（社会事業 13-2），1929．
(3) 村上賢三：「農村の乳幼児死亡に就て」十全会雑誌 35-3），1930．
(4) 高野八重子：「農村乳幼児を保護せよ」（社会事業　究20-6），1932．
(5) 高橋雅介：「輓近の農村社会施設概要」（社会政策時報 1-39），1932．

(6) 浜田光雄：「差当り必要な農村幼児保護施設」（社会事業１９３３年4月），１９３３．
(7) 不明：「慌禍最も激しき東北地方の諸様一乳児死亡率率の上昇と体質の低下」（日本経済年報１８輯），１９３４．
(8) 西宮弘：「農村女性と乳幼児の保護」（社会事業１９３４年4月），１９３４．
(9) 西野陸夫：「凶作と乳幼児保護対策」（社会事業１９３５年4月），１９３５．
(10) 津下剛：「農村問題の一としての間引について」（経済史研究15-2），１９３６．
(11) 横川つる：「農村に於ける乳児死亡と母の生活状態との関係に就て」（農業労働調査所報告№３３），１９３７．
(12) 斎藤潔その他：「北海道農村の業態と乳幼児発育，栄養との関係に関する調査」（北方農業４２-７），１９３７．
(13) 伊坂春：「農村を乳児の死亡と結核の惨害より救え」（社会事業研究２６-７），1938．
(14) 荒木清雄他：「北海道農漁村の業態と乳幼児の発育栄養との関係に関する調査」（北方農業），１９４３．

6 文化・教育

(1) 石黒成男：「農家主婦の経済知識」（大日本農会報５９６），１９３０．
(2) 三宅やす子：「農村女性教育」（『農村教育の根本問題』），四条書房，1931．
(3) 稲毛金八：「農村女子教育の方針」（教材集録），１９３３．
(4) 文部省：『民象娯楽調査資料第６輯全国農山漁村娯楽状況（上）昭和７年調』１９３４．
(5) 福永のぶ子：『農村の家事教育』，（東洋図書株式会社），１９３５．
(6) 笠森保繁：『農村更生の礎石としての農村女塾』（啓明会紀要），啓明会，１９３５．
(7) 友添佐一：「農村女子教育の革新について」（農業教育４２２），１９３６．
(8) 三井境：「農村女子教育」（文化と教育），１９３６．
(9) 友添佐一：「農村女子教育について」熊本教育），１９３６．
(10) 梅村定二郎：「女子農業教育の重要性」（愛知県会報４２０），１９３７．
(11) 太田敏兄：「農村心理の研究」（社会政策時報２０１），１９３７．
(12) 同上：「農民の喜、悲、苦に関する調査」（社会政策時報２１３），１９３８．
(13) 同上：「農民の興味娯楽嗜好に関する調査」（社会政策時報２２１），１９３９．
(14) 暉峻義等：「農村婦人に潜めるかとその宣揚」（農業教育４～４），１９３９．
(15) 高倉新一郎：「小学生を通じて行なった石狩支庁内農家娯楽調査」（法経会論叢７），１９３９．
(16) 鈴木隆一：「女子農業教育の問題」（村10～11），１９４３．
(17) 丸岡秀子：『農村文化の問題－婦人の文化的生活の貧困を中心として」（教育６-１０），１９４３．
(18) 野尻重雄：「農村婦人の勤労教育」（農業と経済12-1），１９４５．

7 組織と運動

(1) 平野学：「農村婦人の問題－農民運動の展開と農村婦人の組合における地位」（婦人運動５-１），１９２７．
(2) 産業組合中央会：『婦人と産業組合に関する調査』，１９２９．
(3) 「少年少女の農業娯楽部について」（大日本農会報６０５号），１９３１．
(4) 農林省経済更生部：『婦人の経済更生活動事例第１輯」，１９３３．

(5) 農林省経済更生部：『婦人の経済更主活動事例第二輯』、1934.
(6) 羽柴米男：『凶作地方に於ける救世軍の婦女救済運動』，1935.
(7) 産業組合中央会：『産業組合婦人団体に関する調査所団体名称』，1935.
(8) 同上：『農村婦人の活動をみる』.1936.
(9) 同上：『農村婦人と産業組合運動』（産業組合宣伝叢書，第30輯），1937.
(10) 丸岡秀子：「農村産業組合婦人の組織と活動」（産業組合380），1937.
(11) 田中新次郎：『農村保健婦の活動と産業組合』（医療組合6-3・4合併号），1940.
(12) 産業組合中央会：『農村と婦人活動』1941.

8 家族制度

(1) 柳田国男：「農村家族制度と慣習」（農政講座），1927.
(2) 農林省：『農村及都市における財産の分配状況に関する事項』（農村対策調査5）』，1936.
(3) 鈴木栄太郎：「農村における通婚地域について」、（年報社会学第三輯），1936.
(4) 有賀喜左衛門：「結納と労働組織」（社会経済史学6-3），1936.
(5) 関口武：「村落通婚圏に関する諸問題」（地理学評論19-8），1943

9 文献目録

(1) 東京市政調査会資料室：「都市・農村関係文献目録」，1936.
(2) 喜多野清一：「農村社会学文献目録(1933 1月～1936年6月)」，（年報 社会学第4輯），1936.
(3) 内閣調査局：『県村関係資料目録第一輯－日本農業の再認識に関する資料目録』1936.
(4) 池田善長：「農村社会学関係邦文文献集第一輯（1936年度）」上，下，（農業経済研究13-34），1937.
(5) 同上：「農村社会学関係文献目録（1938）」「家族と村落」，1939.
(6) 労働科学研究所：『婦人労働に関する文献抄録（邦文の部）（日本労働科学研究所報告第一輯』，1940.
(7) 「労働問題文献抄」（労働統計調査月報），1939.
(8) 井出ふさ子 永原 和子編：「農村婦人問題文献目録（農業総合研究所 文献叢書第3号）」1952年（1949年まで）.

担 当 者
大学院博士課程 木 村 純
大学院修士課程 千 葉 悦 子
社会教育ゼミ3年 古 村 えり子